

●ロシア留学セミナー (東京/11 月 16 日) その②

留学はゼロサムゲーム 前編

柴田友子 (ロシア語同時通訳者)

昨年 11 月に行われた JIC ロシア留学セミナーで、同時通訳者の柴田友子さんに講演をしていただきました。JIC インフォメーション前号に掲載した「私のロシア語勉強術」に引き続き、今回は留学に関するテーマの前半です。

それですね、突然飛ぶんですけど、ロシア語留学の話です。私の場合は、通訳をやってきて一番大きな問題は何かというと、それはロシア語が下手だということなんです。そのことは様々な場面でいろいろな段階で感じるもので、語学というのは本当に限りのないもので、ありがたいことにどの段階でも楽しいし、面白いし、同時にどの段階でも絶望的に多くの問題を抱えています。これロシア語では *попытка объять необъятное* ってよく言うんだけど、それは「どんなに抱えようとしても抱えることの出来ない際限ないものを、抱えようとする試みである」というような意味です。皆さんがこれから言葉をやっていくというのは、何年やったら出来るようになるっていうものではなくて、何年も何年も何十年もきつとやっていくことになるし、私はそうやって自分の言葉っていうものを高めていって欲しいと思うのです。そういった中で、じゃあ留学をするのかどうかって話ですよね。

ロシア語力を高めるために、まず読む

私の問題で言うと、露和の場合、ロシア語から日本語に直す場合、これは日本語はネイティブなんだからスラスラと出来る。ただ問題はロシア語が聞き取れないかもしれないということですよ。それで、今度は逆に和露の場合、日本語からロシア語に直す時、これは、ロシア語が下手だということが問題になります。日本でやっている限りは、日本語がある程度スムーズに流れれば、お客さんにある程度満足していただくことはできるかも知れません。ただ私が何で今これを痛切に感じているかというと、最近続けてロシアで仕事があったんですね。ロシアでやる会議というのは、議長さんもロシア人だし、

オーディエンスもロシア人だし、そうするとロシア語が下手だということはものすごく深刻です。会議全体のレベルに関わってくる問題になります。それから日本にいらしたスピーカーの通訳をする時も、彼の話の中身はおそらく全部分かると

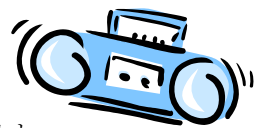


思うし、日本語にするとということもおそらく問題なく出来るんだけど、最初にやりとりして、打ち合わせをしたりしている段階で、ロシア語が下手だと十分な信頼感を持って頂けない



という問題がありますよね。こんな簡単なこと間違いの？この人に交渉事を話して大丈夫なんだろうか？という疑いをもたれる恐れもあります。

それで、私はロシア語を伸ばすためにどんな勉強のやり方をしたかということ、ロシア語が上手に流れるために、やっぱり読むということをもものすごくやりました。今もすごくやっています。なんでロシア語がやっぱり大変なのかってことを考えると、どう考えてもしゃべるスピードが遅いんですね。それは同時通訳でロシア語にしている場合にはもう致命的で、自分の出しているロシア語が遅いってことは、それだけ頭の中でロシア語に出すために使っている荷重が大きいってことだし、その分日本語をキャッチして考える余裕がなくなってる訳だし、スピーカーからは遅れ遅れになっていくということになります。それで、私は 3 月の「水会議」に入る前にロシア語を早くするという大プロジェクトをやりました。ロシア語の記事を、適当に選んで、ストップウォッチを手に持って、で、毎日読むのね。一度に何十回も読みません。毎日同じものを 3、4 回くらい読みます。そして毎回計ってチェックします。早いけど汚いのは仕方ないので、録音します。ちっちゃなデジタルレコーダーを使ってやりました。で、聞くんですね。



この聞くということは、これはもしかしたら皆さんの役に立つかも知れないけれども、レベルによってやって良いこととやっていけないことがあって、私が長い間それをやってこなかったのは、初心者の段階で自分の汚い発音を聞くってというのは、百害あって一利なしだと思っています。私の下の娘は心理学専攻なだけけれど、自分の声をいっぱい聞くと人は心理的に異常をきたしてくるんだそうですね。そういうことを考えても、あんまり自分の声を必死になって聞くのは良いことじゃないけれども、たまには聞いてみて、どこが聞き苦しいのか、どこが汚いのかってことをチェックします。私はス

スピードアップするというを中心にしてやったので、スピードアップをしようとするどこが落ちこちてしまうのか、どこがぐちゃぐちゃになってしまうのかということをチェックしながらやりました。で、かなり速くなったと思います。

留学はゼロサムゲーム。だから行く時期を考えよう!



留学するのかもしれないのかということ考えた時に、留学っていうのはもしかしたら、一方がプラスになったら他方がマイナスになる「ゼロサムゲーム」たとえられるのではないかと思います。短期なのか長期なのかという

ことも一つのポイントであるし、それから、ずっと突き詰めていくと、どっちのネイティブなのか、バイリンガルなのかって話にもなります。

バイリンガルの人って、みんなものすごく羨ましいなって思うかも知れないけれども、それでこれを書いたんだけど（二匹の恐竜の絵を指す）、これは、自分が二匹の恐竜を持って、それを管理してるっていう図です。この恐竜は、あっちは純ロシア産の恐竜「полноценный» русский динозавр だし、こっちは純日本の恐竜「полноценный» японский динозавр だとします。で、一匹の恐竜をネイティブだとしたならば、こっちは全部日本のです。もしかして、子供時代、少年少女時代をロシアで過ごしたよっていう人がいますよね。その場合に少年少女時代のこっち（日本の部分）を一緒に取ることは出来ないわけですね。欠落しているというとその方に失礼ですが、その人たちはその欠落を補填するために凄い努力をしている。同様に、家でいつも



ロシア語と日本語を使っている人はかなりバイリンガルである。そういう時はこれは両方とも薄い色で全部塗ってあるということかもしれない。そしたら、日本の恐竜のうんと濃い色の日本の恐竜と比べた時に、やっぱり薄いかも知れないですよ、その人は。

それと同じように皆さんが、留学を考える時に、いつ留学するのか、どれくらい長く留学するのかということを考えています。例えば、大学時代にポンっというちゃったらどうか、日本の恐竜の日本での大学生活っていうのは欠落することになる。アメリカに行く人達には高校から行っちゃう人も多い。その人は、日本で高校生活はしていない。そうすると、留学をしないことによって日本に居続けるメリットっていうのが、その分は確実に欠落します。今から留学をしようっていう人に否定的

なことを言うわけじゃないけれども、このことを理解し意識した上で、どの時期にどのくらい行くのかということ、真剣に考えた方が良いと思います。少年少女時代にロシアに行ったたという人はおそらくそれは不可抗力ですよ。で、ロシア語習得の点ではものすごく大きなメリットをそこから受けていると思います。けれども、それをもし日本の社会で生かしていくとしたらば、日本の社会に適応して日本人のお客さんに良い通訳だなどと思ってもらって、日本人としての社会的な常識があつてなんでも安心して任せられる、日本語も完璧だと思ってもらう為には、その分もの凄い努力をしないと、少年少女時代に日本にいなかった部分を補填することは出来ないと思います。

日本に居続けるメリットというものもある

で、今度は大学時代に例えば 4 年間行っちゃった場合。その年頃の 4 年間というのは、自分という人間を作っていく上で、しっかりした自分の考え方というものを作っていく上で、凄く大事な時期ですよ。皆さんは



日本にいるから、その、日本に居続けることのメリットっていうのはもしかしたらあんまり分からないかも知れないけど、それはおそらくずっと先になって分かる。分かる人もいるし、そういう状況には陥らない人もいるかもしれないけれども、日本にいて、日本の社会で起きていることをずっと吸収してきた純日本人であるということが、もしかしたら意外と大きなメリットであるかもしれない。

なぜこういうことを言うかということ、私は通訳をやってきて、ネイティブじゃないってこと、そして長期の留学経験がないって事はいつもすごく負担だったんですね。わりと初期の段階では特に強く思っていました。それは初期の段階ではまだ日本語もロシア語も下手だからなんで、そうするとロシア語の下手さがすごく目立って、その時に少しでもロシア語の方が先行してうまい人の方が高く見られます。ロシア語うまいなって思われるから。すごく評価高いです。そういう時に、留学してないからこんなつまらないことも言えないし、スムーズにロシア語が出てこないんだ、などいつも深刻に感じてたわけなんですよ。それで、私は、留学してないことを補填するための努力をあらゆる方面でやってきました。恐ろしいことに、何十年もやってきたわけですけども、かなり言葉が出来るようになってみると、どっちもメリットがあるんだなということが分かる時がきます。きつと来ると思います。